

海外安全対策情報（2023年10月～12月）

1 社会・治安情勢

(1) テロ等の傾向

ア 2023年中、パキスタンで306件のテロが発生し3年連続の増加となった。

パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により、

2009年以降減少傾向にあったものの、2021年以降増加傾向にある。2

021年に隣国アフガニスタンの首都カブールが陥落して以降、地域情勢は不安定

化しパキスタンにも大きな影響が及んでいる。

イ 10月のテロ発生件数は27件であった。テロにより、30名が死亡し29名が

負傷した。テロで死亡した29名の内訳は治安機関員が8名、民間人が19名、

武装勢力が3名であった。

11月のテロ発生件数は27件であった。テロにより59名が死亡し73名が

負傷した。死亡者の内訳は治安機関員が30名、民間人が19名、武装勢力

が10名であった。

12月のテロ発生件数は23件であった。テロにより57名が死亡し、54名が

負傷した。死亡者の内訳は治安機関員が33名、民間人が13名、武装勢力

が11名であった。

テロ発生件数は前の期（2023年7月～9月期）から57件減少（134件→77件）し、死者は223名減少（368名→145名）、負傷者は285名減少（441名→156名）した。

ウ 今期においては、即席爆破装置（IED）攻撃や銃撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設を標的と公言している勢力もある。

エ 都市部や地方の別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束及び武器・弾薬等の押収が多く確認された。治安当局による徹底した取締りが行われているが、依然としてイスラマバード首都圏を含めた都市部においてもテロの脅威は存在している。

(2) 各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にあり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人被害事案

詐欺被害 1件

(2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が頻発している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

(3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバード首都圏は富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に加担する事件が時折発生している。また、家主の不在間に家屋に侵入し、金品を窃取する事件が発生しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

(4) 名誉殺人

当国では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される、所謂名誉殺人が跡を絶たない。今なお保守的なパキスタン社会では、毎年多くの女性が名誉殺人の犠牲になっており、凄惨な殺害事件も発生している。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させるのが都市部でさえ一般的であり、それに起因するトラブルで結婚相手やそ

の家族・親族等からのDV被害も深刻な問題となっている。

(5) 性犯罪及び虐待

当地では、婦女暴行を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は非常に多く、性犯罪は増加傾向にあると報じられている。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことが多く、被害実態は正確に把握できない。被害者の年齢及び性別は多様で特に子どもをターゲットにした極めて悪質な犯行も多く発生しており、誰もが被害者になる可能性がある。また、最近の報道によると、イスラマバード市内居住の外国人駐在員女性が自宅の警備に従事している警備員に寝室に押し入れられ、性的暴行を受けた事件が発生している。当地では、「自分の身は自分で守る」という意識を常に持ち、決して油断することなく、細心の注意を払うことが重要である。

(6) サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（F I A）サイバー犯罪部門は、SNSを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。F I Aでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

(7) プロの物乞い

イスラマバード首都圏では、マフィアの支配下にある物乞いが問題となっており、イスラ

マバード警察では摘発に力を入れている。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等、不注意な行動は犯罪者に隙を与えるため、慎む必要がある。

(8) 宗教上の禁忌に対する反応

2021年12月3日、パンジャーブ州シアルコートの工場において、スリランカ人マネージャーをパキスタン人従業員が撲殺し、その遺体を路上で放火する事件が発生した。事件の発端は、宗教的禁忌（預言者ムハンマドに対する冒瀆）に起因しており、激昂した多くの従業員が暴徒化した。宗教上の禁忌に十分な注意を払い行動する必要がある。

(9) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

3 2022年10月から2023年12月までのテロ発生状況

2022年

10月	42件、死者	67名、負傷者	121名
11月	35件、死者	81名、負傷者	79名

12月 38件、死者 95名、負傷者 109名

2023年

1月 26件、死者 124名、負傷者 247名

2月 29件、死者 35名、負傷者 112名

3月 27件、死者 39名、負傷者 60名

4月 32件、死者 77名、負傷者 43名

5月 41件、死者 95名、負傷者 73名

6月 33件、死者 53名、負傷者 38名

7月 29件、死者 127名、負傷者 173名

8月 59件、死者 81名、負傷者 75名

9月 46件、死者 160名、負傷者 193名

10月 27件、死者 30名、負傷者 29名

11月 27件、死者 59名、負傷者 73名

12月 23件、死者 57名、負傷者 54名

(出典：パキスタン平和研究所「P I P S」)

4 安全を考える上で参考となる事件等 (報道ベース)

10月分

○3日、治安部隊は、KP州タンク部族郡ペズにて情報に基づく作戦（IBO）を実施し、テロリスト10名を殺害した。

○4日、ISPR（軍統合広報局）は、チャマン国境にてアフガニスタン側の兵士が民間人に無差別な発砲を行い、パキスタン人2名が死亡したと発表した。また、アフガン当局に対して当事件を調査し、実行犯をパキスタン当局に引き渡すよう要請したと述べた。

○5日、警察は、KP州デラ・イスマイル・カーンにてIBOを実施し、銃撃戦により Haibat と呼ばれている最重要指名手配犯のテロリストを殺害した。

○7日、治安部隊は、バロチスタン州ケチ（Kech）地区にてIBOを実施し、テロリスト2名を殺害した。

○7日、KP州北ワジリスタン部族郡ラズマク（Razmak）にて、治安部隊は銃撃戦によりテロリストであるアジーム・ウッラー・ガージ（Azeem Ullah Ghazi）を殺害した。（ISPR プレスリリース158）

○8日、バロチスタン州クエッタ近郊の Sor Range 炭田にて、パキスタン鉱物開発公社（PMDC）職員が爆発により死亡した。警察は、IEDが使用されたと報告したが、未だどの組織も犯行声明を発表していない。

○9日、バロチスタン州ジョーブ郡サンバザ（Sambaza）にて、治安部隊とテロリストによる銃撃戦が発生した。テロリスト5名が死亡した一方、少佐を含む兵士2名が殉職した。

○10日、ISPRは、KP州デラ・イスマイル・カーン部族郡クラチ（Kulachi）及び北ワジリスタン部族郡ミランシャー（Miramshah）にてIBOを実施し、テロリスト1名をそれぞれ殺害したと発表した。また、ケッチ郡ホシャープで治安部隊の作戦により武装勢力と思われる2名を殺害したと治安当局が発表した。（ISPRプレスリリース160）

○11日、強盗団がシンド州カーンプルのコット・シャフ（Kot Shaku）警察署を襲撃し、警察署長（SHO）を含む警官5名が誘拐された。同州選挙管理内閣首席大臣は、誘拐された警官の解放に関し3日間の期限を設定した。

○11日、アフガニスタンにて、パキスタン当局から指名手配されていたTTPのAteequr Rehman司令官が殺害された。同司令官はKP州ラッキー・マルワット部族郡出身であり、アフガニスタンから同地域に越境攻撃を行っていた。

○11日、KP州タンク郡ジャンドラ（Jandola）のカーリー（Karri）近郊の辺境警備隊（FC）ポストが武装勢力の襲撃を受け、地元警察と治安部隊が反撃し、地元テロリスト1名を殺害した。

○13日、パンジャーブ州警察長官は、11日にシアルコートのモスクで3名が殺害された事件の実行犯7名を逮捕し、外国の諜報機関が関与していたと発表した。当事件によりジェイシエ・ムハンマド（JeM）活動家が殺害された。

○14日、治安部隊はKP州北ワジリスタン部族郡ミーラー（Mir Ali）にてIBOを実施した。銃撃戦により兵士1名が殉職した一方、テロリスト6名が死亡、8名が負傷した。

○14 日、バロチスタン州トルバット（Turbat）にて、武装集団が無差別に銃を乱射し、労働者 6 名を射殺、2 名を負傷させた。どの組織も犯行声明を発出していない。

○ハーフィズ・グル・バハダール・グループの首謀者が死亡

・18日、KP州北ワジリスタン部族郡ガリョム（Gharyoum）にて銃撃戦が発生し、指名手配されていた司令官を含むテロリスト 6 名が死亡した一方、兵士 3 名が殉職した。また、19日には同州南ワジリスタン部族郡アスマン・マンザにて、銃撃戦により兵士 1 名が殉職した。（ISPRプレスリリース168）

・ハーフィズ・グル・バハダール（Hafiz Gul Bahadar）・グループは、ワジリスタン部族郡での攻撃に関与していた同組織のハズラット・ザマン司令官が 18 日に死亡したことを公式声明にて認めた。

○16日、KP州南ワジリスタン部族郡アスマン・ムンザ（Asman Munza）にて、銃撃戦によりテロリスト 1 名が殺害された一方、兵士 1 名が殉職した。また、同州北ワジリスタン部族郡ミランシャーでも銃撃戦が発生し、テロリスト 1 名が死亡、兵士 1 名が殉職した。（ISPRプレスリリース165）

○イスラマバード警察は、Dongi Kasi にて TTP 戦闘員 2 名を逮捕し、武器等を回収した。取り調べによると、容疑者はイスラマバードにて重要人物及び施設を標的とする計画を立てていた。

○18 日、パンジャーブ州警察テロ対策局（CTD）は、IBO を各地で実施し、ダーインシュ、

TTP、シパハ・サハバ・パキスタン（SSP）、アル・カーイダに所属するテロリスト9名を逮捕した。

○18日、ペシャーワルのピル・バラ（Pir Mala）のワーサク（Warsak）道路にて、武装集団の発砲により警察官1名が死亡し、別の1名が負傷した。

○20日、治安部隊はKP州ラッキー・マルワット部族郡セムワンダ（Semu Wanda）にてIBOを実施し、テロリスト4名を殺害した他、別のテロリスト1名を逮捕した。（ISPRプレスリリース170）

○27日、治安部隊はKP州ハイバル部族郡ティラにてIBOを実施し、テロリスト1名を殺害し、2名を逮捕した。一方、同州南ワジリスタン部族郡にてIEDが爆発し、兵士2名が殉職した。（ISPRプレスリリース178）

○29日、バロチスタン州アワラン地区ホロ（Khoru）にて銃撃戦が発生し、テロリスト2名が死亡した一方、兵士2名が殉職した。

○31日、バロチスタン州ケチ地区トゥルバット近郊の警察署にて、武装集団の発砲により労働者4名と警官1名が死亡した。

○31日、治安部隊はパンジャーブ州ジョーブ郡サンバザにてIBOを実施し、テロリスト6名を殺害した。

1 1 月分

○3日、バロチスタン州グワダル郡において、武装集団がパキスタン軍の車両2台を襲撃

し、14人の軍人が殉職した。

○3日、治安部隊はKP州デラ・イスマイル・カーン部族郡ロリ地区にてIBOを実施し、テロリスト1名を殺害した。(ISPRプレスリリース180) 一方、同部族郡にてIEDの爆発が相次ぎ、民間人5名及び兵士1名が死亡、24名が負傷した。また同日、同州ラッキー・マルワット部族郡にて銃撃戦が発生し、テロリスト1名が死亡した一方、兵士2名が殉職した (ISPRプレスリリース180)。また、治安部隊は、デラ・イスマイル・カーン部族郡にて掃討作戦を実施し、10名を殺害したと発表した。

○4日、治安部隊は、パンジャーブ州空軍ミアンワリ基地の攻撃を受け、テロリスト9名を殺害した。ISPRは、空軍施設に大きな被害はなく、既に運用を段階的に停止していた航空機3機にわずかな被害があったと発表した。パキスタン・ジハード運動 (TJP) が当事件の犯行声明を発表した。

○カーカル選挙管理内閣首相は、過去2年間で TTP によるテロ攻撃により 2,867 人の命が失われた他、タリバーン暫定政権発足以前より自爆テロが 500%増加したと記者会見にて述べた。

○6日、治安部隊はKP州ハイバル部族郡ティラ (Tirah) にてIBOを実施した。銃撃戦の結果、中佐を含む兵士4名が殉職した。(ISPRプレスリリース184)

○7日、KP州デラ・イスマイル・カーン部族郡ダラジンダ (Darazinda) にて、武装集団が民間石油ガス会社の事務所を襲撃し、警察官2名が死亡、3名が負傷した。

○7 - 8日、治安部隊はKP州チトラル部族郡ウルスン（Ursoon）にてIBOを実施し、テロリスト2名を殺害した。（ISPRプレスリリース187）

○9日、KP州タンク部族郡ワジール・カライ（Wazir Kalay）にて、警察と治安部隊は銃撃戦により武装勢力4名を殺害した。

○11日、KP州タンク部族郡Kari Sha Noorにて武装勢力が警察に発砲し、銃撃戦により警察所長（SHO）を含む警官3名が殉職した。

○13日、KP州デラ・イスマイル・カーン部族郡ダラジンダ（Darazinda）にて、武装勢力が石油・ガス関連会社の車両を襲撃し、民間人2名と警備員1名が殺害された。

○12-13日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリ（Mir Ali）にて銃撃戦が発生し、兵士2名が殉職した。

○14日、KP州タンク部族郡ワジラバード（Wazirabad）にて、武装勢力により警察官1名が射殺された。

○14-15日、治安部隊はKP州タンク部族郡キリ・マチャン・ケール（Kiri Machan Khel）にてIBOを実施し、テロリスト7名を殺害した。（ISPRプレスリリース190）

○16日、ISPRは、治安部隊がパシャーワルのバダバール（Badaber）にてIBOを実施し、司令官を含む武装勢力4名を殺害したと発表した。

○18日、治安部隊は、KP州北ワジリスタン部族郡カイスール（Khaisoor）にてIBOを実施し、指名手配犯を含むテロリスト4名を殺害した。（ISPR PR 192）

○19日、バロチスタン州ケチ郡ホシャブ（Hoshab）にて道路脇に設置されたIEDの爆発により車に乗っていた3名が死亡した。当事件に関していずれの組織も犯行声明を発表していない。

○18日、KP州ハイバル部族郡アッパーバラ（Upper Bara）にて、パトロールを行っていた治安部隊2名が銃撃により殉職した。

○20日、KP州デラ・イスマイル・カーン部族郡クラチ（Kulachi）にて、IBOによりテロリスト2名が死亡した。また、治安部隊は同州南ワジリスタン部族郡コット・アザム（Kot Azam）にてIBOを実施し、テロリスト1名を殺害した。一方、同州北ワジリスタン部族郡ガリョーム（Gharyoum）にてIEDの爆発により兵士1名が殉職した。（ISPR PR 193）

○22日、KP州北ワジリスタン部族郡ラズマク（Razmak）にて、IED爆発により兵士2名が殉職した。また、同州南ワジリスタン部族郡バジョール郡では2箇所爆発が発生し、部族長老を含む3名とJUI-Fの地元指導者の父親を含む3名がそれぞれ死亡した。

○23日、CTDはバロチスタン州ケチ地区トゥルバット（Turbat）にて、IBOによりテロリスト4名を殺害したと発表した。

○26日、治安部隊はKP州南ワジリスタン部族郡サラローガー（Sararogha）にてIBOを実施し、テロリスト8名を殺害した。（ISPR PR 199）

○26日、KP州バンヌー部族郡バックヘル（Bakkakhel）にて、人力車に仕掛けられた爆弾が治安要員を輸送する車両が通りがかった際に爆発し、通行人1名が死亡、治安要員

と一般市民計12名が負傷した。

○ISPRは、26日にKP州バンヌー部族郡で発生したテロ事件の死亡者が2名に増加したと明らかにした。また、当事件はハーフィズ・グル・バハーダルに所属するアフガニスタン人による自爆テロであったと発表した。

○28日、ISPRは、治安部隊がバロチスタン州カラト（Kalat）にてIBOを実施し、テロリスト2名を殺害したと発表した。

○当地治安機関は、KP州南ワジリスタン部族郡でのIBOにより米国製の武器を回収した。情報筋によると、アフガニスタンにはTTPが容易に入手出来る米国製武器が大量に残されている。

12月分

○1日、KP州ハイバル部族郡バラ(Bara)にて、銃撃戦によりポリオ・チームを護衛していた警察官が殉職した。

○2日、ギルギット・バルティスタン（GB）のチラス（Chilas）にてバスが襲撃され、軍関係者3名を含む9名が死亡、25名が負傷した。地元警察当局によると、地元民6名が当事件に関与した容疑で逮捕された。ローンGB内相は、当事件は宗派間の攻撃ではなくテロ事件であると発言した。

○2日、KP州マルダン部族郡にて治安部隊がTTP司令官を逮捕し、尋問によりハイバル

部族郡に保管されていた膨大な武器を押収した。公式発表によれば、TTP は州都でのテロを計画していたが、阻止された。

○5日、パシャワルのワルサク（Warsak）ロードにて、IED の爆発により子ども4名を含む6名が死亡した。警察によると IED はパトカーを標的として設置されていた。

○5日、KP 州南ワジリスタン部族郡サラローガ（Sararogha）にて、治安部隊と武装勢力の間で銃撃戦が発生し、兵士1名が殉職した。

○6日、KP 州ハイバル部族郡ジャムルド（Jamrud）にて、何者かが無差別に発砲し辺境警備隊（FC）隊員1名が殉職した。ムハンマド・ホラサーニ TTP 報道官が犯行声明を発表した。

○7日、バロチスタン州ソバットプール（Sohbatpur）にて爆発が発生し、1名が死亡、警察官2名を含む3名が負傷した。

○8日、治安部隊は KP 州タンク部族郡にて IBO を実施し、テロリスト5名を殺害した。また、地元情報筋によると、同州ハイバル部族郡ティラ（Tirah）でもテロリストの隠れ家に対して攻撃が行われた。

○10日、KP 州クズダールのスルタン・イブラヒム・チョーク（Sultan Ibrahim Chowk）にて、爆発により警察署長（SHO）1名が殉職した。

○11日夜-12日、治安部隊は、KP 州デラ・イスマイル・カーン部族郡ダラジンダ（Darazinda）にて IBO を実施し、テロリスト17名を殺害した他、隠れ家を破壊した。

○12日夜、治安部隊は同部族郡クラチにてIBOを実施し、テロリスト4名を殺害したが、兵士2名が殉職した。

○12日未明、武装勢力6名は、爆発物を積んだ車両で同部族郡ダラバン（Daraban）の警備基地を襲撃した。銃撃戦によりテロリスト6名は全員殺害されたが、兵士23名が殉職した。

○15日、KP州タンク部族郡南部の警察本部にて、銃撃戦によりテロリスト5名が死亡した一方、警官3名が殉職した。また、武装勢力が同州ハイバル部族郡の検問所を襲撃し、辺境警備（FC）隊2名が死亡、6名が負傷した。

○18日、KP州ハイバル部族郡アッパーバラ（Upper Bara）にて、パトロールを行っていた治安部隊2名が銃撃により殉職した。現時点で犯行声明は発表されていない。

○20日、ラホールに所在するサキブ・ニサル（Saqib Nisar）元最高裁長官の邸宅にて爆発が発生し、警官2名が殉職した。パンジャブ州警察は、同最高裁長官及び家族は無事であり、綿密な捜査を行うよう指示を受けたと声明を発表した。

○21日、CTDは、KP州デラ・イスマイル・カーンにて兵士23名が殉職したテロ事件の首謀者を含むテロリスト9名を逮捕した。

○22日夜、正体不明の襲撃者がKP州南ワジリスタン部族郡にて建設中の警察署を襲撃し、少なくとも労働者5名が死亡した。

○23日、CTDは、パンジャブ州チニオット（Chiniot）にて、11の主要なテロ活動に関与

し、250万ルピーの懸賞金がかけられていたTTPのテロリストGhazanfar Nadeemとその共犯者1名を殺害し、彼らの隠れ家から武器・爆発物を回収したと発表した。

○29日、治安部隊はKP州北ワジリスタン部族郡ミル・アリにてIBOを実施し、司令官を含むテロリスト5名を殺害した。（ISPR PR 226）

○30-31日、バロチスタン州アワラン部族郡マシュカイ（Mashkai）でIBOが実施され、テロリスト5名が殺害された。また、31日、KP州ワジリスタン部族郡スピンワムにて、国境検問所を襲撃した武装勢力との銃撃戦により兵士1名が殉職した。一方、治安部隊は同州バジョール部族郡バットワー（Batwar）にて、銃撃戦によりテロリスト3名を殺害した。

5 誘拐・脅迫事件発生情報

今期、日本人が対象となる誘拐事件は発生しなかった。

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

また、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が事件に巻き込まれるケースも発生している。

2020年12月15日、カラチ市南地区において中国人の車両に遠隔装置爆弾が設置されたが不発だった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した2人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

2021年4月、クエッタにおいて駐パキスタン中国大使が滞在していたホテルに対するテロが発生した。さらに、同年7月14日には、K P州のダッスー水力発電プロジェクトに従事するスタッフ達を乗せた中国会社のシャトルバスが建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人及びパキスタン人十数人が死亡し、数名が負傷した。本件については、パキスタン政府及び中国政府がテロであったとしている。

同年8月20日、バロチスタン州グワダルにおいてC P E C 関連事業に従事する中国人技術者を狙った自爆テロが発生し、中国人及びパキスタン人9名が死亡、複数の負傷者が出た。

2022年4月26日午後、シンド州カラチ市のカラチ大学に隣接する孔子学院前で自爆テロが発生し、中国人教員3名を含む4人が死亡、2人が負傷した。

同年9月28日午後、カラチ市サダル地区にある歯科医院内で殺害事件が発生し、中国人1名が射殺され、2人が負傷した

また、2022年11月、TTPがパキスタン政府との停戦協定の破棄を宣言以降、テロの脅威がある。同年12月には首都イスラマバードで自爆テロが発生し、複数人が死傷しており、これに関してもTTPが声明を出した。

当地においては、活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、まずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)